

[テニス] 関東大学対抗

女子が3連覇 男子は3位

関東大学対抗テニス選手権の女子決勝戦が12月23日、亜大で行われた。相手は早大。シングルスを全勝、ダブルスを1勝1敗とし、トータル4―1で勝利をつかみ、3年連続優勝という素晴らしい成績を残した。

細貝沙織主将(経済3・水戸商高)は「試合の内容としては、良かったと言えるようなものではなかったし、大会に向けてのチームの状態も万全ではなかった。今後の課題は個々のレベルアップ。目標を統一して、全日本学生王座に向けて頑張りたい」と、満足することなく気持ちを引き締めた。佐藤雅幸監督は「1年を勝ちで締めくることができたので良かった」と語った。

また、男子は準決勝で早大に敗れたものの3位決定戦で法大に勝利した。岡洋一郎監督は「課題の残った大会だった。優勝した早大と技術的にそこまでの差はないので、また来年、新たに挑戦していけるようにしたい」と語った。

(渡辺 知美・文1)

[レスリング] 天皇杯全日本フリー120kg級

荒木田準優勝

天皇杯全日本レスリング選手権が12月21日から23日まで、代々木第2体育館で行われ、フリースタイル120kg級で荒木田進謙(経済2・光星学院高)が準優勝を果たした。

荒木田は今大会がケガからの復帰戦だったが、順当に勝ち上がり、決勝戦に臨んだ。相手は専大レスリング部OBの田中章仁さん(平16経済=FEG)で4年連続同一カード。第1ピリオドを落とし、第2ピリオドも先取点を奪われる苦しい展開。土壇場で同点に追いついたものの力及ばず、敗れた。

また、フリースタイル55kg級で稲葉泰弘(経営4・霞ヶ浦高)が、グレコローマンスタイル84kg級で矢野将章(経済3・広陵高)がそれぞれ3位入賞。フリースタイル66kg級で細越孝紀(経済3・光星学院高)がベスト8入りした。

(庄司 亮介・文1)

[スキー] 全日本学生チャンピオン大会

クロカン 大森が2種目制す

スキー部がクロスカントリー、アルペンの両部門で上位入賞を果たしている。ともに全日本学生選手権(1月9～17日、妙高高原ほか)での総合優勝を目指し、調子を上げている。専大スキー部の活躍を期待したい。

【クロスカントリー】

白滝北大雪クロスカントリー大会が12月13日から16日まで、北海道紋別郡で開催され、女子のクラシカルで下平恵理華(商3・飯山南高)が、スプリントで大森菜保子(経済3・花輪高)がそれぞれ優勝した。



▲「マイペース」で2種目制覇の大森

下平は「自分の得意種目はフリーなので優勝は予想外。試合内容が良く、結果がそれについてきた感じです」と、大森は「内容はそれなり。強化選手に選出され、プレッシャーもあるが結果が出て良かった」と語った。

また、12月20日から23日まで、北海道音威子府村で開催された全日本学生チャンピオンスキー大会は大森がクラシカル、スプリントの2種目を制した。また、北林亜砂子(文4・米内沢高)がクラシカルで3位、下平がフリーで4位に入賞した。

大森は、「得意のクラシカルで勝てたのはうれしい。マイペースで試合を進められていることが良い結果につながっていると思う」と話した。

【アルペン】

道東シリーズ第1戦から第4戦が北海道で行われた。第1、2戦に相当する糠平温泉GS(ジャイアントスラローム)大会(12月14～16日)では、女子の第1戦で丸子由里香(経営1・北照高)が7位となった。

続く第3、4戦にあたるJALカップ阿寒スラローム大会(12月19～21日)では、木田江里乃(経営2・北海学園札幌高)が第3戦で4位、第4戦で5位、丸子が第4戦で7位に入った。

木田は「結果には満足しています。全日本学生に総合優勝するため、全力を尽くします」と語る。(新海 城生・経済3)

[バドミントン] 関東学生新人戦

女子団体が3位入賞

関東学生バドミントン新人選手権が11月6日から12月14日まで、東京都立川市の泉体育館ほかで行われ、女子が団体が3位に入賞した。個人戦ではシングルスで田村千秋(文1・昭和学園高)が準優勝、ダブルスで井上春奈(商2・埼玉栄高)・堤桂子(商2・札幌静修高)組が3位に入賞した。

団体戦でもチームをけん引した田村は「新チームになってから初めての大会で、『ダブルスの強化』といった課題も見つかった。個人戦は調子があまり良くなかったが結果を出すことができた。次のシーズンに向けてチームが一つになって練習していきたい」と話した。

その他の入賞者は次の通り。

【シングルス】安藤真里絵(経営1・西条農業高)、落合智世(経済2・鈴峯女子高)＝ともにベスト8

【ダブルス】安藤・落合組、田村・穴井友喜(文1・青森山田高)組＝ともにベスト8

(庄司 亮介・文1)

[スピードスケート] 全日本

道下が総合3位 ワールドカップなど代表に

全日本スピードスケート選手権が12月16日から18日まで岩手県営スケート場で開催され、道下雅史主将（経営3・白樺学園高）が5000メートルで2位、1万メートルで3位となり4種目総合で3位に入賞した。

今大会はワールドカップ（後半戦）と、世界オールラウンド選手権アジア地区予選会の代表選考会を兼ねており、見事両大会の派遣メンバーに選ばれた。

道下主将は「うれしいの一言。やっと表彰台に上がることができたし、3位となり、自信がついた」と語った。

[スピードスケート] 松本浅間選抜男子3000メートル

大会新で佐山優勝

松本浅間選抜スピードスケート競技会が12月7日から9日まで、松本市浅間温泉国際スケートセンターで開催され、3000メートルで佐山敏幸(経営2・池田高)が大会新記録の3分59秒77で優勝した。「今大会は自分の思うように滑れたので、優勝できたのだと思う」と話し、「目標は、インカレで優勝すること」と今シーズンの意気込みを語った。

また1500メートルでは今野陽太(経営3・白樺学園高)が3位となった。

(佐山 竜太・経済1)

[剣道] 関東学生新人戦

男子12年ぶり優勝 女子はベスト16に

12月8日、関東学生剣道新人戦が東京武道館で行われ、男子は平成7年以来、12年ぶりの優勝を遂げた。

惜しくもベスト16に泣いた全日本学生で4年次生が引退し、まだ1カ月余り。しかし関東学生、全日本学生でも活躍した鳶津貴之(経済2・安房高)を筆頭にタイトルを手にした。鳶津は「新チームになって強豪校に足を運び、練習試合を多く行うなど、新人戦を狙って練習に励んだ。みんな「挑戦していこう」という雰囲気だった」という。



▲優勝した男子メンバー

決勝で対戦した中大は前年度の優勝校。「練習試合では大差で負けていたので、負けて元々と逆に落ち着いて、みんな一丸となれた。本当にやってみないとわからない、と実感した」と、鳶津は感慨深げに語った。

また1日に行われた関東女子学生新人戦も、ベスト16と前年を上回る成績を残した。

(松本 かおり・文2)

[フェンシング] 全日本

団体2種目でベスト8 個人は阪野・高橋がベスト16

全日本フェンシング選手権が12月13日から16日まで大分県の日田市総合体育館で行われ、男女ともフルーレ、エペの両種目で団体戦ベスト8に進出。また、4人が出場した個人の部では、男子フルーレで阪野弘和(経済2・武生商高)が、女子フルーレで高橋南(文3・聖霊女子短大附高)がベスト16入りした。

男子主将の樋口直哉(文4・柏陵高)は「ベスト8に入ることができたのは良かったが、勝っていた試合を終盤に追い上げられ落とすという、もったいない負け方に悔いが残る」と話した。

また、女子主将の佐々木智子(経済4・八千代西高)は「最後の大会だったので、できるだけ多く戦いたかったが、今大会はルールが厳しく、声出しが規制されてしまったこともあり、『全日本』という雰囲気でのまれしてしまった。だが思い出に残る試合になった」と語った。

(馬場 雄也・ネット情報1)

[馬術] 全日本学生<女子>

鶴林が4位 男子は松本8位

全日本学生馬術選手権が12月8、9の両日、JRA馬事公苑で行われ、専大からは4選手が出場。女子選手権で鶴林舞(商1・市立前橋高)が4位入賞を果たした。

馬場馬術競技で争われる1、2回戦を順調に勝ち上がった鶴林。障害飛越が加わり、2種目となった準決勝では障害総減点0の好騎乗をみせ、決勝に進出。力及ばなかったものの、11月の関東学生女子選手権優勝に続き、良い結果を残した。

また男子は、松本務(経営2・農業経営高)が準決勝に進出し、8位入賞を果たした。